

昭和のデザイン

WEB展示

はじめに

当館には南山大学の元教員、重松和男氏をはじめ、一般の方に寄贈していただいた昭和期の生活用品が多数所蔵されています。

本企画展では重松家、寺澤家からの寄贈品を中心に昭和後期の絵柄や色、文字のフォントなどのデザインに着目して展示しています。家電、食器やパッケージなど、近年のレトロブームで再び注目が集まっているどこか懐かしいモダンなデザインの数々をご覧ください。



魔法びん

(株)象印マホービン製の花柄の卓上魔法瓶。
1967年に花柄ブームが到来し、卓上魔法瓶にも
相次いで花柄が取り入れられた。

日本初の花柄魔法瓶はナショナル魔法瓶工業製で、
花柄の図案は京都の反物の図案者によって作成
された。

この頃に、フルカラーで印刷できる新技術が導入
されたため、華やかでカラフルな花柄が採用された。



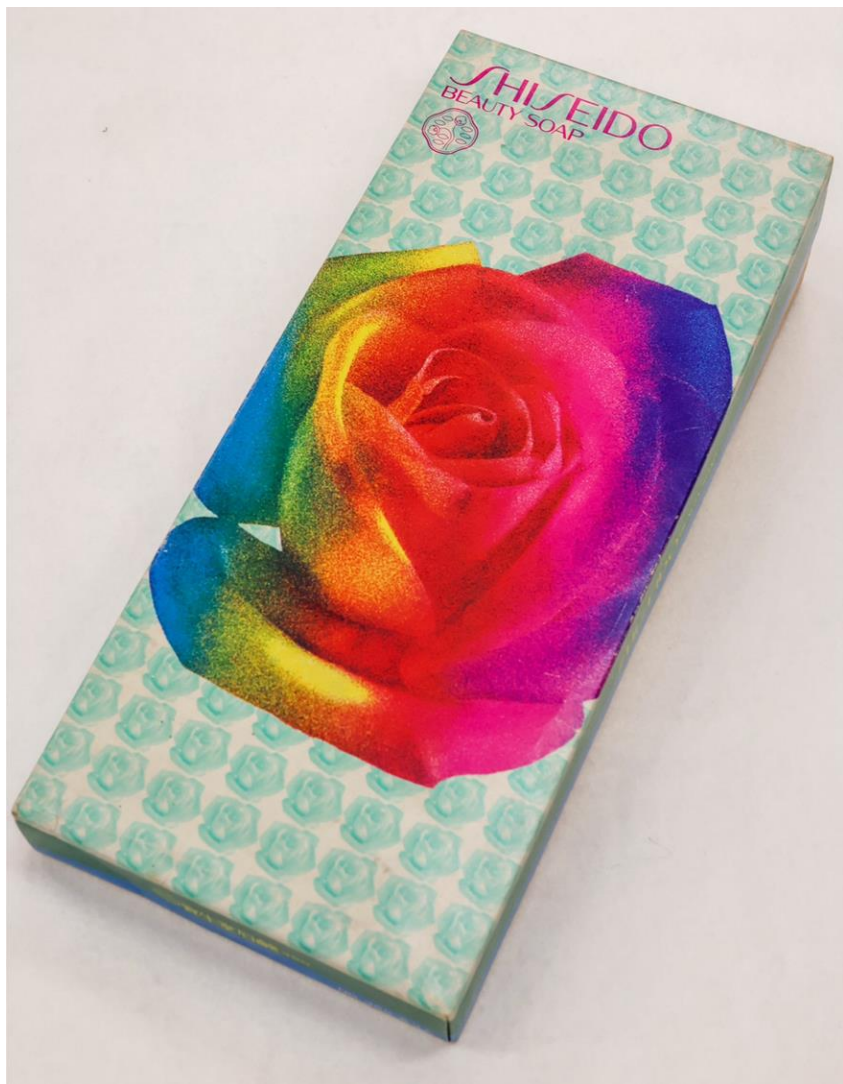
ベビーパウダー

和光堂から発売されたベビーパウダーの空箱。

母親と赤ちゃんのデザインは大正時代から存在し、時代ごとに髪形など変化が見られる。

紙製は1946年から1955年ごろ、缶は1963年からのデザインである。





資生堂の石鹼箱

固形の歯磨き粉が入っていた箱。

牛乳石鹼の箱

牛乳石鹼共進社から発売されていたカウブランドの赤箱。





たばこ

赤十字100周年記念に発売された記念たばこ。



アサヒビールの 記念グラス

アサヒビールの名古屋工場竣工記念で
製造されたグラス。



裁縫セット

文溪堂の裁縫セット。



味の素

赤缶の旧ロゴの“aマーク”は米国人グラフィックデザイナー、ソール・バス氏によってデザインされた。



白缶の旧ロゴはバブル期にコーポレートアイデンティティの動きが盛り上がる中で初めて横文字のデザインが採用された。

ナショナルの トースター

ナショナル(現パナソニック)から発売された
トースター。

花柄ブームに則り、花柄のトースターが数多く
発売された。



ナショナル(全自動)トースターS(1970年代)
ナショナル(現パナソニック)から発売された
トースター。
花柄ブームに則り、花柄のトースターが数多く
発売された。



日立のテレビカバー

創業社長である小平浪平が考えた。
通称「亀の甲マーク」

明治43年以降に制作された製品にこのマークが
使用されている。「太陽と共に立つ」という創業の
意気を示した。

テレビのサイズに合わせて切れ込みが入っている。



カルトナージュの箱（年代不

カルトナージュの箱

箱の蓋部分に薄く綿が入れられており、カルトナージュが施された箱ということが分かる。

ロゴなどは見当たらず、手作りの可能性が高い。

カルトナージュはフランスの伝統工芸である。